

日々 往来

岡本 敏男



2024年
度上期をめぐ
りに新しいお札
(日本銀行券)
が発行される

予定ですが、40年ぶりに新たな肖像となる、1万円札の渋沢栄一が大きな関心を集めています。渋沢は、現在に連なる数多くの銀行や企業を創設し、「近代日本資本主義の父」と敬われていますが、その波瀾万丈の生涯の中でお金の発行にも幾度か関わっています。

若い頃には、明治新政府の中

お札の新しい顔のお話

極で、江戸時代以来の多種多様なお金が乱立し、混沌としていた状況の收拾に尽力し、わが国の通貨金融制度の近代化に大きく貢献しました。特に米国の銀行制度に倣った国立銀行条例の起草に關与の後、官を辞して自ら第一国立銀行を經營したことは有名です。銀行が発行した紙幣には頭取である彼の名前が記されています。

幕末、一橋家に仕官していた20代半ば、播州にある領内の木綿に目をつけ、取引所の設置や藩札(手形)の発行などを手掛けて、地域経済の活性化と財政充実に成功しています。これはその後の生涯で制度の改革・創設と殖産振興を次々と手掛ける渋沢の原点とも思えるエピソードです。

(日本銀行鳥取事務所長)